ここがいい！
安心して過ごせる場所

特別養護老人ホームくにやす苑

施設概要

◎所在地　　：掛川市

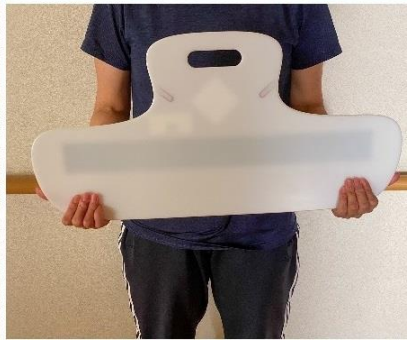
◎開設年月：2004年12月

◎施設形態：特養個室ユニット型

◎定員　　：80名

◎併設施設：デイ、ショート

◎職員数　　：98名



A様の紹介

- 名前　　：A様
- 性別　　：女性
- 既往歴：アルツハイマー型認知症
- 性別　　：社交的・お話好き
  人のお世話が好き
- 趣味　　：編み物
- ADL　　：見守りがあれば、ほぼ自立

入居当時の様子

≪周辺症状≫

・帰宅願望（時間問わず出口を探して歩く）
・被害妄想（男の人に殴られた）
・不眠・入浴拒否

⬇

●A様の周辺症状に対し、強い口調で他の入居者様に怒られてしまった

●職員も、A様の行動を止めてしまうような声掛けが増えた

➡

ユニットは
怖い場所
安心できない！
お風呂も
入りたくない。

目標

①苑内で安心できる場所を見つけ、
好きなことをする
②定期的に衣類の交換をする

＊具体的な対応については、
関係部署で話し合い、
対応できること、できないことを挙げ、
A様が自由に過ごせる方法を考えた

具体的な取り組み

ユニット職員	事務所	看護職員
・A様が出かけるときには「行ってらっしゃい」と声をかけ、引き止めない ・食事はユニットで摂る ・ユニットに戻った時には、「おかえりなさい」と伝え、迎える	・編み物をする ・屋外散歩に行く（A様が行きたい所まで） ・音楽鑑賞の準備 ・ご家族へ状況報告（ケアマネ）	・ゆっくりお話を聞く ・夜間不眠時の、内服薬の相談
・入浴とは言わず、お誘いする（入浴できない時には正式、足浴）		

＊そのほかにも、フリー職員の勤務時間の調整や、ユニット施錠時間の調整等を実施した

結果（入居３か月後の様子）

・ユニットに居られる時間が長くなり、半日はユニットで過ごし、もう半日は、事務所に顔を出す程度になった。

・『ちょっと行ってくるね。』とおっしゃるようになり、また戻ってくることを前提に出かけるようになった

・入浴はできないが、衣類交換ができるようになった

ユニットが怖い場所ではなく、
帰る場所に変わっていった

新たな目標

①ユニットで過ごせる時間を増やし、さらに安心できる場所になる

②入浴する

具体的な取り組み

ユニット職員	事務所	看護職員
・日常的な家事をする（洗濯物干し、洗濯たたみ、食器洗い等） ・入浴とは言わず、お誘いする ・入浴できない時には清拭、足浴（時間は問わない）	・遊びに来てくれた時には、一緒に過ごす ・屋外散歩（希望時） ・ご家族への状況報告	・ゆっくりお話を聞 ・夜間不眠時の、薬の相談

このまま、苑の生活に慣れ、お風呂にも入れるようになるのではないかと思っていた

新たな目標を立ててから
1か月経った頃・・・

・親しくなった入居者様に
『あなた一緒に居たくない』と言われてしまった（原因不明）

↓

自分が悪いことをしたのではないか？と思い込む様子があった

これをきっかけに、周辺症状が悪化・・・
振り出しに戻った

この時のA様の様子の再確認

≪周辺症状≫

・徘徊・被害妄想・気持ちの落ち込み

・物の収集・集中力の欠如（編み物に集中できない）

・入浴拒否

≪対応≫

・入居当時同様、事務所で過ごすようにした

・入浴もご本人が不快に感じないよう、声掛けをした

＊しかし以前のように、事務所で安心している様子がない

＊A様にとって安心できる場所がない状態になった

今の状態で、今後起こると考えられること

・不安定な気持ちのまま過ごす生活が続く
・他の入居者様との関係悪化
・離設と交通事故、行方不明
・保清ができない

精神科に受診し、
周辺症状の原因の明確化、
内服薬の調整が必要

目標の追加

・周辺症状の原因を明確にする
・内服薬の調整をしてもらい、穏やかな生活につなげる

具体的な取り組み

ユニット職員	事務所	看護職員
・できるときには、日常的な家事を一緒にする ・出かけるときは引き止めない **・日常の様子を細かく記録に残す**	・遊びに来られた時には一緒に過ごす **・様子によって遠位見守り** **・ご家族への説明、情報共有** **・受診の手配、付き添い** **・受診時の資料作成**	**・主治医に他科受診の相談** **・日常的な記録の確認、資料作成** ・ご家族への説明、情報共有

結果と現在

【精神科医師の診断】

- 物の収集や、徘徊は不安が強くなってしまったことによる、代償行為。

⇒安心感を求めるために、物を集めたり、徘徊したりしていることが分かった。

【受診後の様子】

- 内服薬の調整で、不安な様子がなくなった。

⇒「みんな私のせいにする」の発言が「みんな良くしてくれる」の発言に変わった

⇒入浴のお誘いに対して抵抗なく、入れるようになった

A様の対応についての評価

・A様が現在、穏やかな表情で過ごせており、本当に良かった。認知症の方の心はとても繊細で、辛いことはしっかり覚えていると改めて感じた

・もう少し早く、精神科の力を借りるべきだったか？と思う自分たちがAさんにとって良い方法は何かを常に考え、関わることができた

・多職種が『ここで安心して過ごせるようになってほしい』という、同じ目標を持ち、連携し、その時に必要な役割を見極めながら対応できた

・入浴についても、声掛けやタイミングを見ながら声掛けし、ご本人のタイミングで清潔が保てるようにしてきた。最近は入浴もスムーズに入れるようになった。

取り組みを振り返って感じたこと

・介護は一進一退

・生活のお手伝いのため、自然に対応していることでも、改めて振り返ってみると、介護のおもしろさや、楽しさに気づくことができる

・介護現場でも効率化が求められるが、でもやっぱり介護は人対人。
忙しい業務の中で、忘れてしまいがちだが、入居者様と向き合うことが何よりも大切

ご清聴、ありがとう
ございました。